

## 1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

標準偏差値において、県との差を3ポイント縮める。

## 3. 指標にむけての取組

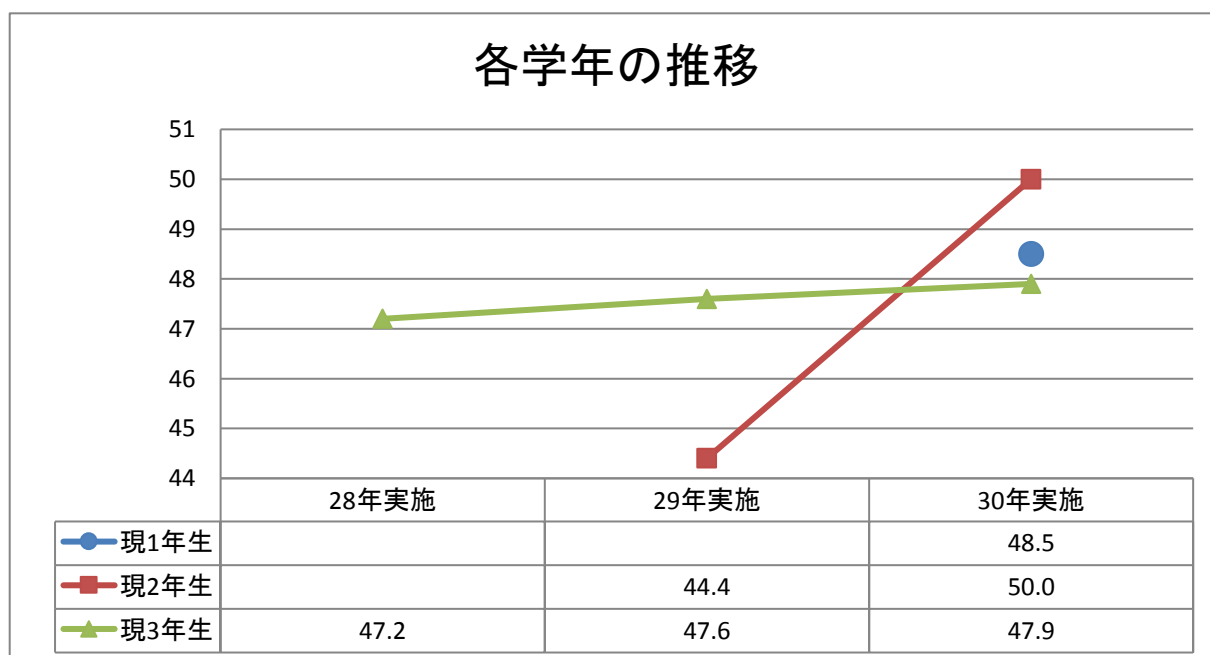
- 基礎・基本の定着を図る朝学習の計画的・継続的な実施
- 家庭学習の内容の工夫(自学ノートの取組、基礎・基本の定着を目指した課題の提示、週末課題における問題集の活用)
- 授業づくりにおける全職員による共通理解(稲中スタンダードの構築)  
⇒めあてやまとめの提示方法、単元ごとのミニテストの実施、根拠を明確にして自分の考えを書く活動や話し合い活動の充実
- 年度末まとめのテストの実施(これまでに学習した内容の中から、特に基礎的な内容を精選)

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
本校(A)	44.3	44.3	45.0	45.3	48.8
嘉麻市(B)	46.6	47.0	47.3	47.9	49.3
(A) - (B)	-2.3	-2.7	-2.3	-2.6	-0.5
標準偏差値との差 (A) - (50)	-5.7	-5.7	-5	-4.7	-1.2

### 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

- ・3年生は、入学時と比べ、わずかに上昇してきているが、ほぼ横ばい状態である。
- ・2年生は、入学時と比べて5.6ポイント上昇した。週末課題として、問題集を活用したことが要因の一つと考えられる。
- ・1年生は、過去にさかのぼったデータ比較でも、最も高い数値を示している。
- ・観点別のABC評価では、数学の「数学的な見方や考え方」、英語の「外国語表現の能力」において、特にC評価の生徒の割合が多い。
- ・『ことば力』に関する資料としては、習得レベルがB(L)「教科書内容の理解に相当の努力を要する」、またはC「教科書内容の理解に苦勞する」の生徒の割合が、全学年の平均で35.6%を占めており、語彙力に課題がある。(2極化の要因)

## 6. 各学校における今後の取組

- 基礎・基本の定着
  - ・一単位時間の中で、学習内容の定着を図るミニテストを実施する。
  - ・計画的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)
- 授業づくりの改善と家庭学習の質と量の向上
  - ・授業づくりと自学ノートの取組の連動と充実
  - ・週末課題における問題集の活用
  - ・個に応じた課題の提示
- 定期テストにB問題を取り入れるなどの見直しと、それに対応した授業づくりを協議する教科部会の実施
- 各教科における領域別の得点率などの細かなデータから、実態や課題を把握し、系統性のある改善策を立てる。
- 短期PDCAサイクルの実施
- 学力向上に向けた小中の連携(小中の学力向上コーディネーターの定期的な会議の設定)

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 授業づくりにあたっては、「書く活動の設定」「高校入試や県教材等を取り入れた定期考査問題作成」「生徒による授業評価の活用」の確実な実施を後押しし、定期的に報告と指導助言を行う。
- 学習サポーターを配置した「嘉麻市土曜未来塾」を年間40日程度開塾することで、基礎基本の定着の強化と家庭学習の習慣化を図る。また、長期休業中及び放課後等における補充学習、個に応じた学習を支援する。
- 嘉麻市学力向上推進プロジェクト協議会を開催し、保護者と取組とその状況を共有する。
- 嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を年間5回開催し、有機的に機能させる。検証改善にあたっては、主幹教諭が要となっていくように研修及び指導助言を行う。また、短期検証改善サイクルを確立していくよう、年間4回の主幹教諭研修において、教育委員会としてのチェック・アクションを実施し、好循環を促す。
- 嘉麻市教育センター主管研修に講師研修会を実施する他、校区に1名配置している学力向上推進員が講師や若年教員の授業参観指導を毎年実施する。